

2019年度 後期 土岐英史客員教授 鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義

1. 日 時： 2019年 10月 16日(水) 15:15~18:30

2. 場 所： K404

3. 対象学生(必修)： 大学ジャズ専攻 短大ジャズ・コース 短大ジャズ 各専攻生

学内のみ他聴講可

4. 講師紹介： 土岐英史客員教授 鈴木央紹特任准教授

◆ 土岐英史(ときひでふみ)客員教授

1950年神戸に生まれる。中学時代にクラリネットとサクスを始め、高校入学後、弱冠16歳でプロデビュー。大学進学後に上京。新宿のジャズ・クラブで活動しながら渡辺貞夫、増尾好秋、本田竹広、峰厚介らとセッションを重ねてきた。1970年からは、鈴木勲グループ、宮間利之とニューハード、日野皓正クインテット、川崎燎クインテット、板橋文夫カルテットなど、日本ジャズ・シーンの伝説的ユニットに参加。1974年には渡辺香津美らとともに土岐英史カルテットを結成し、「TOKI」「LOVERMAN」などの名作を発表。その後もライブ活動に加え、松岡直也、山下達郎、坂本龍一らとのセッション、スタジオ・ワークなど多方面で活躍。また海外でもレコーディングやフェスティバルへの参加など精力的な活動を展開し、1985年からは山岸潤史、続木徹らと共にチキンシャックを結成。同ユニットでこれまでに10枚以上の作品を発表し、ブルーノート東京にも出演を果たしている。その卓越した演奏技術とソウルフルなサウンドで満席のフロアを沸かせたことも記憶に新しい。まさに日本ジャズ史にその名を刻むサクソ奏者といえる。2018年4月より大阪音楽大学客員教授に就任。

◆ 鈴木 央紹(すずきひさつぐ) 特任准教授

Jazz Saxophone Player

1972年11月22日大阪市生まれ。サクソ奏者である父親の影響を受け4歳よりピアノ、作曲を始め、10歳よりサクスを始める。ジャズを独学で始め、16歳の時より演奏活動を開始、17歳の時「AXIA MUSIC AUDITION」においてAXIA賞 Instrumental部門Grand Prixを受賞。

大阪音楽大学音楽学部器楽学科サクソ専攻卒業、クラシックを前田昌宏氏に師事する傍ら、在学中よりクラシックの他、ジャズでの演奏活動も行う。

海外のミュージシャンとの共演も多く、Ron Carter、Lewis Nash、Benny Green、Lonnie Plaxico、Rodney Green、Conrad Herwig、Salena Jones、Kenny Washington、Peter Washington等多数、その信頼も厚い。

現在、自己のリーダーバンドの他、「ルパン三世」等の音楽作曲で有名なピアニスト大野雄二率いる「Yuji Ohno&Lupintic Six」を始め、原大カグループ、原朋直グループ、土岐英史バンド、TOKUグループ等に参加。

また、CDプロデュースワークや楽曲アレンジで、「スタジオ協会録音賞」や「ゴールドディスク賞」を受賞するなど、高い評価を受けている。

そのほか数々のセッション、コンサート、CMやTVドラマ劇判などのレコーディング、近藤房之助やZARDのサポート等、参加したアルバムは100枚を越え、映像作品参加も多数、ジャンルを超え幅広く活動中。

D'Addario Woodwinds エンドーサー

大阪音楽大学ジャズサクソフーン特任准教授

5. 講 義 概 要：

講師、学生によるセッション形式の演奏を行い、ジャズ演奏の方法論および各学生の問題点等について指導して頂く。